

科目名	音響基礎				
担当教員	株式会社サウンドエイト		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 音響機材の使用法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)	音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎実習Ⅰ		映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ		
2	音響基礎実習Ⅱ		音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ		
3	音響基礎実習Ⅲ		録音機材の準備方法、撤収方法		
4	音響基礎実習Ⅳ		ブームの使用法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ		
5	音響基礎実習Ⅴ		スタジオ録音実習		
6	音響基礎実習Ⅵ		アフレコ録音実習		
7	音響基礎実習Ⅶ		アフレコ録音実習		
8	音響基礎実習Ⅷ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
9	音響基礎実習Ⅸ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
10	音響基礎実習Ⅹ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
11	音響基礎実習Ⅺ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
12	音響基礎実習Ⅻ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
13	音響仕上げ実習Ⅰ		ミックスダウンを行ってみる。		
14	音響仕上げ実習Ⅱ		ミックスダウンを行ってみる。		
15	音響効果研究Ⅰ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
16	音響効果研究Ⅱ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
17	音響効果研究Ⅲ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた舞台制作に活かすこと。		
実務経験教員の経歴	新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける				

科目名	音響実習				
担当教員	株式会社サウンドエイト		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演劇作品での音響効果について、その役割を理解する 2. ステージイベントなど、ライブ会場での音響効果について理解する 3. 公演など発表の機会を持ち、音響での仕事の準備～本番～撤収までを理解する				
学習目標 (到達目標)	演劇作品の企画から本番までの流れを理解し、演出面から必要な準備（機材など）を行う事が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実施予定の演劇公演台本、その他資料は基本コピーにて配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台音響について		1年次おさらいとステージ音響の役割		
2	音響プラン・P A・録音・編集 1		現場における必要な機材・準備について		
3	音響プラン・P A・録音・編集 2		音響プランの作成について		
4	音響プラン・P A・録音・編集 3		PA実習		
5	音響プラン・P A・録音・編集 4		録音実習		
6	音響プラン・P A・録音・編集 5		編集実習		
7	音響プランを演劇台本から学ぶ 1		公演用もしくは、規制台本から必要な音源案の作成		
8	音響プランを演劇台本から学ぶ 2		演出面の可能を考え、必要なBGMの準備		
9	音響プランを演劇台本から学ぶ 3		キューシート案の作成		
10	演劇に関する音響プランの作成（基礎） 1		公演用もしくは、規制台本から必要な音源案の作成		
11	演劇に関する音響プランの作成（基礎） 2		演出面の可能を考え、必要なBGMの準備		
12	舞台公演の準備 1		稽古や本番のビデオ記録などで音響箇所の確認		
13	舞台公演の準備 2		音響プランの初期案の作成		
14	舞台公演の準備 3		稽古参加もしくは、ビデオ撮りした記録を使って演出面の確認		
15	舞台公演の準備 4		稽古参加もしくは、ビデオ撮りした記録を使って演出面の確認		
16	舞台公演の準備 5		音響プランの決定		
17	舞台公演の準備 6		現場リハーサル、最終確認		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			音楽編集や室内実習での作業も実践を想定して行っています。すべて、指示の出た内容が結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデントを想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴	新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける				

科目名	ステージ照明				
担当教員	artworks 田中 利明		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	102時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。				
学習目標 (到達目標)	安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎1 機材について		舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方		
2	照明基礎2 照明卓操作と色の变化		機材の名称、使い方と安全な作業について		
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類		各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。		
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識		図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。		
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り		吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。		
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編		オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。		
7	照明基礎7 電気基礎 応用編		灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス（当たり合わせ）		
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方		図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる		
9	照明基礎9 前期復習（テスト）		前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー		
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい		休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し		
11	照明基礎11 演目とイメージ		演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正		
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン		音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作		
13	照明基礎13 芝居などの効果演出		演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作		
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材		演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法		
15	照明基礎15 プランニングまとめ		照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング		
16	照明基礎16 基礎のまとめ		照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい		
17	照明基礎17 1年次総仕上げ		設営・操作・撤去の総仕上げ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴		新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける			

科目名	ステージ照明演習				
担当教員	artworks 田中 利明		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	102時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。				
学習目標 (到達目標)	安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎1 機材について		舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方		
2	照明基礎2 照明卓操作と色の变化		機材の名称、使い方と安全な作業について		
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類		各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。		
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識		図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。		
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り		吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。		
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編		オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。		
7	照明基礎7 電気基礎 応用編		灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス(当たり合わせ)		
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方		図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる		
9	照明基礎9 前期復習(テスト)		前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー		
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい		休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し		
11	照明基礎11 演目とイメージ		演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正		
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン		音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作		
13	照明基礎13 芝居などの効果演出		演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作		
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材		演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法		
15	照明基礎15 プランニングまとめ		照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング		
16	照明基礎16 基礎のまとめ		照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい		
17	照明基礎17 1年次総仕上げ		設営・操作・撤去の総仕上げ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴	新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		映像演出基礎演習			
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ		班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ		撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ		撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ		予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ		撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ		撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ		企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ		企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ		企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ		照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ		舞台制作準備		
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
17	講評会		作品発表会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名		映像演出基礎演習			
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ		班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ		撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ		撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ		予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ		撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ		撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ		企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ		企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ		企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ		照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ		舞台制作準備		
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
17	講評会		作品発表会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ステージマネジメント				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台演劇・ステージイベントの仕組みを理解する 2. 本番に必要な準備と流れを理解する 3. イベント進行時の安全について深く理解する				
学習目標 (到達目標)	本番時の観客とステージ側の進行の責任者であるとともに、安全面の責任者であることも理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実際に使われた公演資料のコピーを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台イベントの種類		演劇・音楽劇・コンサートなど		
2	舞台イベントでの進行係		必要な知識について		
3	舞台監督の存在		ステージマネージャーについて		
4	演目によるルール1		現場や内容によってルールが違う場合がある		
5	演目によるルール2		舞台上の道具の扱いや楽器などについて		
6	演目によるルール3		スタッフ間による情報の共有		
7	イベント進行1		演目のスムーズな進行		
8	イベント進行2		劇場内通路確保について		
9	進行について まとめ		まとめ		
10	ステージマネジメントについて		安全のためのスムーズな進行係		
11	演劇の舞台進行について1		出演者の楽屋と舞台袖		
12	演劇の舞台進行について2		客席の配置と非常時の誘導		
13	演劇の舞台進行について3		演技スペースの確保		
14	演劇の舞台進行について4		ステージ進行表1		
15	演劇の舞台進行について5		ステージ進行表2		
16	演劇の舞台進行について6		ステージ進行表3		
17	演劇の舞台進行について7		まとめ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出来ることとそうでないことに対する判断力が大切な仕事です。 演出の言いなりにならず、役者・観客・スタッフの安全な環境をどう作り上げるかが、スムーズな進行に繋がるという考えを大切にしてください。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	ステージマネジメント				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台演劇の公演について理解する 2. 本番進行表の読み方、描き方を理解する 3. イベント会場での避難誘導について理解する				
学習目標 (到達目標)	舞台本番時の観客とステージ側の進行面と安全面の指示系統の仕組みまでを理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	(株)リットーミュージック「ステージ・PA・照明用語辞典」 実際に使われた公演資料のコピーを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台公演での主な仕事		音響・照明・美術・舞台監督など		
2	舞台進行に関わるスタッフ間の連携 1		ステージ周辺のスタッフの連携		
3	舞台進行に関わるスタッフ間の連携 2		演出面での操作スタッフの連携		
4	演出家の存在 1		舞台演出に関する考え方		
5	演出家の存在 2		演出を具現化する為の働き		
6	舞台進行の役割 1		舞台監督の仕事		
7	舞台進行の役割 2		本番中のアクシデント対応		
8	舞台進行の役割 3		本番中でのスタッフ間の連絡(情報の共有・確認)		
9	舞台進行について まとめ		まとめ		
10	ステージマネジメントの知識		消防法などの届け出について		
11	演劇公演準備 1		出演者香盤表の作成		
12	演劇公演準備 2		演目内容本番進行表の作成		
13	演劇公演準備 3		仕込みスケジュール～本番まで		
14	演劇公演準備 4		テクニカル面の確認 リハーサルについて		
15	演劇公演準備 5		劇場でのリハーサルスケジュール		
16	舞台本番について 1		ステージ本番進行表の作成		
17	舞台本番について 2		ステージ本番進行表の見直し(提出)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出来ることとそうでないことに対する判断力が大切な仕事です。 演出の言いなりにならず、役者・観客・スタッフの安全な環境を どう作り上げるかが、スムーズな進行に繋がるという考えを大切にしてください。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	舞台美術演習				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台美術に関する仕事について 2. 演劇にかかわる仕事の内容について 3. 舞台作業を通じて、様々な状況に対応していく				
学習目標 (到達目標)	舞台美術に関する仕事の種類と技術を学びながら、現場対応力を身に付ける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	工具類 参考資料（過去使用図面等）コピーにて必要時配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台演劇の美術に関する基礎知識		作業全般に起こる危険・安全について		
2	舞台演劇の美術に関する基礎知識		大道具、舞台セットに関する知識		
3	舞台演劇の美術に関する基礎知識		メイク・ヘアメイクの知識		
4	舞台演劇の美術に関する基礎知識		衣裳・小道具や飾りなどの知識		
5	舞台演劇の美術 道具類		平台・箱馬などの使用方法		
6	舞台演劇の美術 道具類		袖パネルの設置		
7	舞台演劇の美術 道具類		色塗り、ボンド・テープ類の使用		
8	舞台演劇の美術 道具類		インパクト・なぐりなどの使用方法		
9	舞台演劇の美術 基礎のおさらい		道具や機材の基礎的な使用方法のおさらい		
10	舞台演出に伝える ステージのイメージ		台本を読み、舞台イメージを考える		
11	舞台演出に伝える ステージ図面		絵・図を描いてみる		
12	舞台演出に伝える 登場人物のイメージ		台本を読み、登場人物の衣裳を考える		
13	舞台演出に伝える 衣裳図・小道具の図		小道具・衣裳のイメージ図を描く		
14	舞台演出に伝える 場面1		幕～場～場の流れを考える		
15	舞台演出に伝える 場面2		転換時の流れから、道具類の状況などを把握する		
16	舞台演出に伝える 場面3		美術と進行の動きを合わせる		
17	舞台演出に伝える まとめ		演出の考えをまとめる		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			基本は、物を作ったり、建てたりという現場での基礎勉強を、知識面とシュミレーションでの勉強が主となります。が、定期的に実際の現場に携わる可能性が高く、故に安全面や経験不足でのトラブルが考えられます。シュミレーションする中で、考えられる限りのアクシデントに対応する意識を心がけるようにしてください。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名		舞台美術演習			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	1	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台美術・衣裳などの仕事について理解する 2. 舞台美術での準備から仕込み作業の流れを理解する 3. 舞台作業を通じて、様々な状況に対応していく				
学習目標 (到達目標)	舞台美術に関する仕事の種類と技術を学びながら、現場対応力を身に付け、作業工程を組み立てることが出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	工具類 参考資料（過去使用図面等）コピーにて必要時配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台演劇の美術に関する基礎知識		作業全般に起こる危険・安全について 1年次おさらい		
2	舞台演劇の美術に関する基礎知識		美術関係の仕事 1年次のおさらい		
3	舞台演劇の美術 道具類		美術用道具について 1年次のおさらい		
4	舞台演劇の美術 メイク		基礎メイクについて		
5	舞台演劇の美術 ヘアメイク		ヘアメイクに関する基礎授業		
6	舞台演劇の美術 衣裳		衣裳製作について		
7	舞台演劇の美術 仕込み図 1		仕込み図について 1		
8	舞台演劇の美術 仕込み図 2		仕込み図について 2		
9	舞台演劇の美術 おさらい		おさらい		
10	舞台を創る ステージのイメージ		台本を読み、舞台イメージを考える		
11	舞台を創る ステージ図面		絵・図を描いてみる		
12	舞台を創る 登場人物のイメージ		台本を読み、登場人物の衣裳を考える		
13	舞台を創る 衣裳図・小道具の図		小道具・衣裳のイメージ図を描く		
14	舞台を創る 舞台監督 1		幕～場～場の流れを考える		
15	舞台を創る 舞台監督 2		転換時の流れから、道具類の状況などを把握する		
16	舞台を創る 舞台監督 3		美術と進行の動きを合わせる		
17	舞台を創る まとめ		演出の考えをまとめる		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			基本は、物を作ったり、建てたりという現場での基礎勉強を、知識面とシュミレーションでの勉強が主となります。が、定期的に実際の現場に携わる可能性が高く、故に安全面や経験不足でのトラブルが考えられます。シュミレーションの中で、考えられる限りのアクシデントに対応する意識を心がけるようにしてください。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	舞台ステージ制作				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台公演での作品作り。 2. スタッフとキャストにおいて作業を理解する。 3. 台本から演出を考える。				
学習目標 (到達目標)	大小問わず、ステージでの作品作りが出来るようになること。発表を意識した、準備・稽古が行える。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	各種台本のコピーを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ステージプラン		公演準備について		
2	ステージプラン		作品テーマと公演内容（台本選び）		
3	ステージプラン		広報関係と公演日程		
4	ステージプラン		スタッフ関係について		
5	ステージプラン		演出家について		
6	劇場での仕事		演目の種類		
7	劇場での仕事		受付や公演時間、案内について		
8	劇場での仕事		劇場スタイルとキャバ。劇場内スタッフの役割など		
9	企画発表（プレゼン）		公演企画書の提出とプレゼン		
10	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
11	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
12	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
13	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
14	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
15	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
16	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
17	発表		本番を意識した演劇公演の実施		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			2年次の勉強として、その他カリキュラムでの総合的な発表の場を想定して行うので、ステージスタッフとしての仕事の考えられる計画や準備を重要視して行っていく。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	舞台ステージ制作				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台公演での作品作り。 2. スタッフとキャストにおいて作業を理解する。 3. 台本から演出を考える。				
学習目標 (到達目標)	大小問わず、ステージでの作品作りが出来るようになること。発表を意識した、準備・稽古が行える。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	各種台本のコピーを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ステージプラン		公演準備について		
2	ステージプラン		作品テーマと公演内容（台本選び）		
3	ステージプラン		広報関係と公演日程		
4	ステージプラン		スタッフ関係について		
5	ステージプラン		演出家について		
6	劇場での仕事		演目の種類		
7	劇場での仕事		受付や公演時間、案内について		
8	劇場での仕事		劇場スタイルとキャバ。劇場内スタッフの役割など		
9	企画発表（プレゼン）		公演企画書の提出とプレゼン		
10	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
11	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
12	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
13	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
14	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
15	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
16	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
17	発表		本番を意識した演劇公演の実施		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			2年次の勉強として、その他カリキュラムでの総合的な発表の場を想定して行うので、ステージスタッフとしての仕事の考えられる計画や準備を重要視して行っていく。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

②

科目名		演劇プランニング			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台・イベント等の興行の仕組みを理解する。 2. 企画・制作の仕事を理解する。 3. 興行スケジュールの準備から本番行程までの流れを理解する。				
学習目標 (到達目標)	舞台制作での興行プランの作成。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	演劇プロデュースに関する資料集まとめをコピーにて配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演劇プランニング1 プロデューサーについて		演劇やイベントを組む上での必要な考え方		
2	演劇プランニング2 演劇スタッフの役割について		演劇公演に必要な人材や役割を理解する		
3	演劇プランニング3 公演準備について		公演時に必要な役割と準備		
4	演劇プランニング4 +C18:AD25 企画書の準備 提案		企画書作成に関する基礎知識		
5	演劇プランニング5 企画書の準備 ディスカッション		演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	演劇プランニング6 企画書の準備 ディスカッション		いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	演劇プランニング7 アイデアの募集		様々な意見やジャンルからアイデアを集めてみる		
8	演劇プランニング8 企画書(案)の作成		アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	演劇プランニング9 企画書(案)の作成(テスト)		仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう(提出)		
10	演劇プランニング10 演劇公演について1		演劇論1 公演目的と意義		
11	演劇プランニング11 演劇公演について2		演劇論2 地域交流(イベント)		
12	演劇プランニング12 演劇公演について3		演劇論3 商業化する劇団		
13	演劇プランニング13 香盤表について1		出演者やスタッフの動きを考える		
14	演劇プランニング14 香盤表について2		出演者のタイムスケジュールについて		
15	演劇プランニング15 香盤表について3		スタッフ進行表について		
16	演劇プランニング16 企画書の作成		実演目的の企画を立ててみる。(演目時間自由)		
17	演劇プランニング17 企画書の作成(テスト)		企画案を纏め、企画書の作成(提出)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			簡単なイベントなどから、製作するモノを客観的に捉え、必要な物を揃えること。それをイメージしながら授業にて疑問を持って臨んでほしい。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		演劇プランニング			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台・イベント等の興行の仕組みを理解する。 2. 企画・制作の仕事を理解する。 3. 興行スケジュールの準備から本番行程までの流れを理解する。				
学習目標 (到達目標)	舞台制作での興行プランの作成。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	演劇プロデュースに関する資料集まとめをコピーにて配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演劇プランニング1 プロデューサーについて		演劇やイベントを組む上での必要な考え方		
2	演劇プランニング2 演劇スタッフの役割について		演劇公演に必要な人材や役割を理解する		
3	演劇プランニング3 公演準備について		公演時に必要な役割と準備		
4	演劇プランニング4 +C18:AD25 企画書の準備 提案		企画書作成に関する基礎知識		
5	演劇プランニング5 企画書の準備 ディスカッション		演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	演劇プランニング6 企画書の準備 ディスカッション		いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	演劇プランニング7 アイデアの募集		様々な意見やジャンルからアイデアを集めてみる		
8	演劇プランニング8 企画書(案)の作成		アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	演劇プランニング9 企画書(案)の作成(テスト)		仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう(提出)		
10	演劇プランニング10 演劇公演について1		演劇論1 公演目的と意義		
11	演劇プランニング11 演劇公演について2		演劇論2 地域交流(イベント)		
12	演劇プランニング12 演劇公演について3		演劇論3 商業化する劇団		
13	演劇プランニング13 香盤表について1		出演者やスタッフの動きを考える		
14	演劇プランニング14 香盤表について2		出演者のタイムスケジュールについて		
15	演劇プランニング15 香盤表について3		スタッフ進行表について		
16	演劇プランニング16 企画書の作成		実演目的の企画を立ててみる。(演目時間自由)		
17	演劇プランニング17 企画書の作成(テスト)		企画案を纏め、企画書の作成(提出)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			簡単なイベントなどから、製作するモノを客観的に捉え、必要な物を揃えること。それをイメージしながら授業にて疑問を持って臨んでほしい。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

②

科目名	メイク実習				
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	メイク基礎実習Ⅰ		メイク道具の名前、使用方法を学ぶ		
2	メイク基礎実習Ⅱ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる		
3	ビューティーメイク演習Ⅰ		イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。		
4	ビューティーメイク演習Ⅱ		イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。		
5	傷メイク実習		二人一組になり、傷メイクを行う		
6	メイク基礎実習Ⅲ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる。		
7	特殊メイク実習Ⅰ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
8	特殊メイク実習Ⅱ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
9	特殊メイク実習Ⅲ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
10	メイク基礎実習Ⅳ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる		
11	舞台メイク実習Ⅰ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
12	舞台メイク実習Ⅱ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
13	舞台メイク実習Ⅲ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
14	メイク撮影実習Ⅰ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
15	メイク撮影実習Ⅱ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
16	メイク撮影実習Ⅲ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
17	メイク撮影実習Ⅳ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。		
実務経験教員の経歴	Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当				

科目名	メイク実習				
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	メイク基礎実習Ⅰ		メイク道具の名前、使用方法を学ぶ		
2	メイク基礎実習Ⅱ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる		
3	ビューティーメイク演習Ⅰ		イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。		
4	ビューティーメイク演習Ⅱ		イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。		
5	傷メイク実習		二人一組になり、傷メイクを行う		
6	メイク基礎実習Ⅲ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる。		
7	特殊メイク実習Ⅰ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
8	特殊メイク実習Ⅱ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
9	特殊メイク実習Ⅲ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
10	メイク基礎実習Ⅳ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる		
11	舞台メイク実習Ⅰ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
12	舞台メイク実習Ⅱ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
13	舞台メイク実習Ⅲ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
14	メイク撮影実習Ⅰ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
15	メイク撮影実習Ⅱ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
16	メイク撮影実習Ⅲ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
17	メイク撮影実習Ⅳ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。		
実務経験教員の経歴	Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	メディアマスコミ基礎学				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. メディア・マスコミ業界の仕組みや内容を理解する。 2. イベント・ラジオ・テレビ業界で働くための基礎知識習得を行う。 3. 各業界の仕組み、企画から発信までの流れ、簡単な歴史などを学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	1. イベントの基本的な事柄を説明できる。2. ラジオ・テレビの基本的な制作工程が説明できる。3. マスコミで仕事をする上で基本的な考え方や関係性を理解している。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料ほか				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	マスコミの基本的存在意義		メディア＝仲介の役割 人と出来事を結ぶ存在		
2	新聞（報道）メディアの基礎 I		5W1Hで報道は伝えられる。ネットの速報性に対して新聞は記録性にある。人権尊重の意識など		
3	新聞（報道）メディアの基礎 II		価値ある報道とは？新奇性・人間性・普通性・社会性・影響性・記録性・国際性・地域性など		
4	報道記事の作成		身近で起こった出来事を5W1Hに当てはめて記事を作成し、発表する。		
5	イベントの基礎 I		セールスプロモーションとパブリックリレーションズの違い。イベント企画から実施、効果測定までの流れ。		
6	イベントの基礎 II		宣伝と動員の違い。開催時期や会場決定について。アンケート集計によるマーケティングについて。		
7	イベントMC・司会について		進行と仕切りを任されているMCの本当の役割について。実習（台本をもとにMCを行う）		
8	ラジオCMの基礎		20秒に何をどう伝えるか。音だけで消費行動を起こす。実習（CMを作成）		
9	テレビCMの基礎		15秒に何をどう伝えるか。情報CMとイメージCMの違い。CM企画から実施までの流れ。		
10	ラジオ番組制作の基礎		CUEシートの作成、選曲、BGM、トーク内容などの各パートの説明		
11	ラジオ番組制作の実習		自身で作成したCUEシートをもとに模擬ラジオ番組の制作を実施する。		
12	ラジオパーソナリティーについて		音楽に関する知識、ラジオトークの特徴、楽曲紹介の方法など。		
13	テレビ番組制作の基礎 I		企画、台本作成、取材、放送までの流れ		
14	テレビ番組制作の基礎 II		撮影、編集、MAの基本的知識		
15	アナウンサーについて		リードニュース、実況、番組進行の違い。アナウンサーの役割と技能など。		
16	その他のメディアについて		特にアプリ、Instagram、Youtubeなど新しいネットメディアに特化する。		
17	メディア（マスコミ）に関する将来展望		授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			インターンシップなどで現場に出た際、非常に重要な知識となります。よりビジネス意識を持って受講すること。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名	プロダクション基礎				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 小規模（キャパシティ200名前後）のイベント企画・制作・運営を行える実務能力を養う。 2. 前期は企画から制作を中心に授業を展開し、後期以降はステージ舞台の基礎知識を養う。 3. まずは企画書が書けること。次にステージ舞台の制作運営がイメージ出来ること。				
学習目標 (到達目標)	小規模イベント（芝居・音楽ライブ）の企画制作が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	THE STAFF舞台監督の仕事（晩成書房 伊藤弘成）、その他プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	イベントの基本的構想		組織づくり・スタッフ選定・予算枠決定・会期会場の決定・広報と動員計画		
2	イベント目的の設定・基本的コンセプトについて		目的目標の設定・テーマの設定・展開実施プランの作成・会場演出レイアウト・イベント内容・PRプラン		
3	マスコミ媒体・PR媒体・DMその他		告知方法・媒体決定・PR手段・招待・入場券手配・リスト準備・アンケート調査		
4	会場・展示・告知ツール作成		会場構成・装飾施工手配・出展物リスト作成・搬入搬出計画・来場者誘導計画・届け出について		
5	全体運営管理・責任分担と進行チェック		最終チェックポイント・出演者の確認・各スタッフ確認・マスコミ対応など		
6	効果測定と評価・実施予算集計と報告書作成		問題点まとめ、PR効果チェック・予算報告・イベント全体の報告書作成・次回への記録、情報集約		
7	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット・内容の作成		
8	企画書作成（広告・動員計画）		誰に、どのように情報を伝えるか。どこへアプローチして設定された動員数を集めるのか。		
9	模擬プレゼンテーション		作成した企画書をもとにプレゼンテーションを実施		
10	台本作り		前期に作成した企画書をもとに台本作成を実施		
11	組織の在り方		プロデューサー・ディレクター・舞台監督・音響照明・美術など、それぞれの役割と関係性。		
12	舞台監督は裏の主演		イメージを現実に・舞台は危険がいっぱい・舞台監督は先を読み・スタッフは根 P8～P12		
13	芝居作りの基礎知識（舞台）1		舞台各部の呼び名・幕について・場転について・迫りについて・舞台と客席の境に P14～P24		
14	芝居作りの基礎知識（舞台）2		吊り物・照明関係の機構・床面について・装置を飾る P25～P28		
15	芝居作りの基礎知識（照明）1		主な照明の名称と略号・生明かりは舞台の空気・シーリングとトップ明かり P29～P35		
16	芝居作りの基礎知識（照明）2		明かりはフロントがポイント・バックは美しく・一条明かり・スポット・照明をあやつる P42～P50		
17	芝居作りの基礎知識（音響）		音も演技する・機材について・2C、2TC・音を広げる・耳で確認する P37～P73（抜粋）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			基本的な基礎知識が中心となるが、この知識が無いと舞台制作は出来ない。定期的実施する舞台や音楽イベントを制作運営するためにも必要なことであるため、しっかり身に付けるようにして下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名	プロダクション演習				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 中規模（キャパシティ500名前後）のイベント企画・制作・運営を行える実務能力を養う。 2. ステージ舞台制作だけでなく芝居作り全般についても学習する。 3. 最終的にホールでの公演を実施する。				
学習目標 (到達目標)	中規模イベント（芝居・音楽ライブ）の企画制作が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	THE STAFF舞台監督の仕事（晩成書房 伊藤弘成）、その他プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	芝居稽古の進め方 1		台本の選び方・上演許可をとる・上演台本の作り方・稽古日程表作成・キャスティング P88～P95		
2	芝居稽古の進め方 2		演出について・本読み・立ち稽古・スタッフ会議・稽古場作り・稽古手順・通し稽古・附帳 P96～P104		
3	尺貫法を知る		セット作り・尺を身に付ける・舞台図を作成 P106～P111		
4	明かり仕込み		仕込み図・照明プラン P117～P136		
5	CUEシートを書く		CUE台本作成・照明CUEシート（MAN・CPU・SP）・音響シート・舞台監督CUEシート P157～P174		
6	小スペース劇場		実習スタジオを小劇場にする実習 平台・箱馬の使い方・客席を整える		
7	劇場の打合せ		舞台・照明・音響、各スタッフとの打合せと舞台監督のチェックポイント P183～P194		
8	大道具について（建てる）		パネル作り・人形立て・色を塗る・組み立てる P197～P220		
9	大道具について（上げる）		平台を並べる、上げる・面を隠す・階段を作る・八百屋を作る・あり物の代用 P226～P243		
10	大道具について（吊る）		バトンを扱う・吊り物の基本・上演中の吊り物の昇降について P246～P267		
11	演出効果		遠見・振り落とし・星球・紗幕・特効・水を使う・火を使う・壁を回す P270～P296（抜粋）		
12	本番・劇場へ		搬入搬出・仕込み・注意点・舞台監督の持ち物など P300～P315		
13	場あたりとリハーサル		舞台作り・照明音響チェック・役者の心得・リハーサル進行 P318～333		
14	緞帳について		緞帳について・楽屋の使い方・場転と進行 P335～P349		
15	芝居がはねる（公演終了後）		舞台をカラにする。吊り物をはずす・楽屋現状復帰・搬出 P351～P360		
16	メイク・衣装・小道具		メイクアップ・衣装・小道具について P76～P85		
17	実習施設にてデモ芝居		舞台監督・音響・照明に分かれて20分ほどの芝居作り		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験25%、レポート25%、デモ芝居40%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			照明・音響など、実際に機材を使用することがあります。安全を確保しながら担当講師の指示に従ってください。最終授業ではデモ芝居（15分程度）を行います。知識以上にスタッフの自覚を持って挑んで下さい。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー			

科目名	広告プランニング				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 広告に関する基本的知識の習得を目的とする。 2. 広告（宣伝）を戦略的に展開する基本的ノウハウを学ぶ。 3. 広告コピー概論より、より実務的ノウハウを抜粋して指導する。				
学習目標 (到達目標)	広告全般に基礎知識習得とコピーライティングが出来るまでを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	広告コピー概論（宣伝寛喜・植条則夫）その他配布資料				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	広告計画からクリエイティブ戦略について	コピーと広告目標・多様な広告目標・計画と戦略・コンセプト P1～P22			
2	問題の発見からアイデア発想について	アイデアと直感・アイデア発想の準備・アイデア発想法 P28～P44			
3	スローガンからボディコピーについて	コピーの意味と表現基本公式・ヘッドライン・ボディコピー・スローガン・ネーミング P62～P112			
4	コンセプトからフィニッシュ コピーの視覚化	クリエイティブチームと制作プロセス・アイデアの視覚化・コピーとデザインの関係 P122～P137			
5	新聞からテレビまで コピーの媒体	広告媒体と構成比・新聞媒体、雑誌媒体、ラジオテレビ媒体の特質と表現 P150～P173			
6	ラジオCMの種類と表現	ラジオCMの種類と制約、表現形式、コピーの特質 P180～P201			
7	テレビCMの種類と表現	テレビCMの種類と制約、制作手法、表現形式とコピー P206～P215			
8	カタカナから外来語まで コピーの表記	コピー表記の基本・漢字とかなの法則・外来語と句読点 P240～P255			
9	商品情報から文化情報まで あらゆるコピー表現	商品機能からの発想・イメージと生活情報・社会的、文化的視点、環境を意識 P262～P271			
10	薬品広告から不動産広告まで コピーの特質	医薬品・金融・食品・家電・流通・住宅不動産 それぞれの特質と表現規制 P278～P314			
11	商品広告から意見広告まで コピーの形式	商品広告・企業広告・国際広告・公共広告・政治広告・意見広告 P322～P370			
12	コンシューマリズムから広告綱領まで コピーの倫理	コンシューマリズムとその対応・広告倫理と表現規制・コピーにおける倫理基準 P380～P394			
13	セールスアイデアから販売促進まで コピーの連動	広告と販売促進の関係・セールスアイデア・SPメディアの特質とイベント戦略 P398～P412			
14	デモグラフィック特性からライフスタイルの特性	訴求対象とマーケットセグメンテーション・ライフスタイルセグメンテーション P418～P433			
15	コンセプトリサーチからCMテスト コピー調査	広告におけるアートとサイエンス・広告効果と測定方法・クリエイティブリサーチ P446～P453			
16	オリエンテーションからプレゼンテーション	プレゼンテーションの戦術・プレゼンテーションの問題点 P462～P468			
17	キャッチコピー作成とプレゼンテーション発表（評価）	自身で作成したキャッチコピーのプレゼンテーションとその評価			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験35%、レポート35%、コピープレゼンテーション20%、学習意欲10%		普段からテレビCMや新聞などで掲載されているコピーに興味を持ち、切り抜きなどをスクラップすることが望ましい。コピープレゼンテーションでは、戦略的意見を求めるので、それに答えられるよう準備して下さい。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	就職指導（専門職）				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 就職活動を行う為の動機づけ 2. 就職活動の進め方（スケジュール、履歴書の書き方等） 3. 個別面談				
学習目標 （到達目標）	求職希望者全員内定				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	就職指導Ⅰ		就職活動を行う為の動機づけ		
2	個別面談		各学生の進路希望、悩みの洗い出し		
3	就職指導Ⅱ		就職活動の進め方、履歴書の書き方指導		
4	個別面談		企業選定を行わせ、進路指導および修正を行う		
5	就職指導Ⅲ		面接指導		
6	個別面談（以下状況を見ながら個別対応）		履歴書チェック、模擬面接、進路指導（随時）		
7	業界説明、企業説明会（企業のタイミングで随時）		学内企業説明会を行い、企業理解を深める		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
履歴書提出30%、企業訪問レポート提出20%、模擬面接20%、出席率30%			就職活動を行うにあたり、報告・連絡・相談を必ず行う。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名	PhotoShop				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. Photoshopの基本的な使用方法 2. Photoshopを使用した画像加工、タイトルロゴ作成 3. Photoshopを使用したポスター制作				
学習目標 (到達目標)	Photoshopを使用し、番組テロップ、映画ポスターの作成が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Adobe Photoshop とは		Adobe Photoshopの機能概要		
2	Photoshop基本操作Ⅰ		Adobe Photoshopの起動方法、ファイルの保存方法		
3	Photoshop基本操作Ⅱ		Photoshopインターフェイスを知る、画面表示と色の選択方法を知る		
4	Photoshop基本操作Ⅲ		Photoshopの環境設定を学ぶ、ツールバーの機能を学ぶ		
5	Photoshop基本操作Ⅳ		ツールバーの機能を学ぶ(選択ツール)		
6	Photoshop基本操作Ⅴ		ツールバーの機能を学ぶ(マスクモード、アルファチャンネル)		
7	Photoshop基本操作Ⅵ		ツールバーの機能を学ぶ(画像解像度とサイズ変更)		
8	Photoshop基本操作Ⅶ		ツールバーの機能を学ぶ(コピー&ペースト、拡大、縮小等)		
9	Photoshop基本操作Ⅷ		ツールバーの機能を学ぶ(カラーモードの変更)		
10	Photoshop基本操作Ⅸ		ツールバーの機能を学ぶ(ペイント機能、レタッチ機能)		
11	Photoshop基本操作Ⅹ		ツールバーの機能を学ぶ(レイヤー操作、パスとシェイプ)		
12	Photoshop基本操作Ⅺ		ツールバーの機能を学ぶ(テキストデザイン、文字の加工、各種フィルタ)		
13	Photoshop実習Ⅰ		フォトレタッチ		
14	Photoshop実習Ⅱ		フォトレタッチ		
15	Photoshop実習Ⅲ		ロゴデザイン		
16	Photoshop実習Ⅳ		フォトコラージュ		
17	Photoshop実習Ⅴ		フォトコラージュ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、実習課題を完成させ提出すること。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名	Word検定				
担当教員	荒川 美和		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. パソコン操作の基本を学ぶ。 2. 編集機能、罫線機能、図形機能を中心にWordの基本操作を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能認定試験3級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウィネット Word2010クイックマスター(基本編) サータィファイ Word文書処理技能認定試験3級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Wordの基本		Wordの起動・画面構成、ヘルプの使い方既存の文書を開く、画面の操作・表示モード、Wordの終了 P2~22		
2	文字の入力と編集の基本操作		新規文書の作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、単語の登録、文書の保存、文字の選択、文字列の編集とコピー・移動 P24~52		
3	文書の編集		ページ・文字の書式設定、文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置、字下げと行間の設定、禁則処理、罫線と網かけ P54~84		
4	文書の印刷		改ページの挿入、ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認、印刷の実行 P86~98		
5	文書の作成		入力フォーマット、段落番号の書式設定、箇条書きの設定、タブ、インデント、クリックアンドタイプ、ビジネス文書の作成例 P102~132		
6	表を使った文書の作成		表の作成、表の選択方法、表の編集、表の装飾、文字列から表を作成する P137~165		
7	図形や画像を使った文書の作成		図形の作成、図形の編集、画像の挿入、横書きテキストボックスの挿入、ワードアートの挿入 P171~208		
8	総合学習問題		総合学習問題 P210~215		
9	試験対策		練習問題1~2 問題集P2~16		
10	試験対策		練習問題3~4 問題集P17~29		
11	試験対策		練習問題5~6 問題集P30~44		
12	試験対策		練習問題7~8 問題集P45~59		
13	試験対策		模擬問題1 問題集P76~83		
14	試験対策		模擬問題2 問題集P84~91		
15	試験対策		模擬問題3 問題集P92~99		
16	試験対策		模擬問題4 問題集P100~106		
17	試験対策		模擬問題5 問題集P107~113		
18	試験対策		模擬問題6 問題集P114~121		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴					

科目名	Excel検定				
担当教員	荒川 美和		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. これまで学んだパソコン操作の復習をしながら授業を進めていく。 2. ワークシートの作成、グラフ、データベース機能を中心に基礎的なExcel活用技術を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウィネット Excel2010クイックマスター(基本編) サティファイ Excel表計算処理技能認定試験3級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	Excelの基本	Excelの起動・画面構成、ヘルプの使い方、既存ブックを開く、画面の操作、セルの選択、Excelの終了 P2~22			
2	データの編集	新規ブックの作成、データの入力、数式の入力、データの移動とコピー、ブックの保存 P24~56			
3	表の編集	罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除 P60~82			
4	ブックの印刷	表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の設定 P84~100			
5	グラフと図形の作成	グラフの作成、図形の作成 P104~132			
6	ブックの利用と管理	ワークシートの管理、ウィンドウの操作 P136~147			
7	関数	統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数 P152~182			
8	データベース機能	リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入 P184~202			
9	総合学習問題	総合学習問題 P204~207			
10	試験対策	練習問題1~2 問題集P2~11			
11	試験対策	練習問題3~4 問題集P12~21			
12	試験対策	練習問題5~6 問題集P22~32			
13	試験対策	練習問題7~8 問題集P33~41			
14	試験対策	模擬問題1 問題集P54~58			
15	試験対策	模擬問題2 問題集P59~62			
16	試験対策	模擬問題3 問題集P63~67			
17	試験対策	模擬問題4 問題集P68~72			
18	試験対策	模擬問題5 問題集P73~77			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。			
実務経験教員の経歴					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	コミュニケーション検定				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。				
学習目標 (到達目標)	社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションとは？		P2 コミュニケーションの必要性を考える		
2	聞く力		P6～P9 目的に即して聞く		
3	聞く力		P10～P14 傾聴・質問する		
4	話す力		P15～P17 目的を意識する		
5	話す力		P18～P22 話を組み立てる		
6	話す力		P23～P29 言葉を選び抜く		
7	話す力		P30～P35 表現・伝達する		
8	実践基礎 1		P36～P39 来客対応		
9	実践基礎 2		P40～P43 電話対応		
10	実践基礎 3		P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶		
11	実践基礎 4		P49～P54 情報共有の重要性		
12	実践基礎 5		P55～P59 チーム・コミュニケーション		
13	実践応用 1		P60～P65 接客・営業		
14	実践応用 2		P66～P71 クレーム対応		
15	実践応用 3		P72～P77 会議・取材・ヒヤリング		
16	実践応用 4		P78～P83 面接		
17	問題演習		P84～P89 模擬問題		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話も交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。		
実務経験教員の経歴	コミュニケーション検定授業歴15年の教員				

科目名	社会人常識マナー検定				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4.ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集3級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。来客対応。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道府県名・県庁所在地・各県の特色など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
17	検定対策③		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴	専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

科目名	ビジネス著作権BASIC				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト(ウイネット) ビジネス著作権検定初級問題集(サーティファイ)				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	著作権とは何か	イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的			
2	著作権で保護されるもの	著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19			
3	著作権は誰が持つ	著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29			
4	著作権の内容 1	著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41			
5	著作権の内容 2	財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59			
6	著作権は誰が持ついつまで保護される	著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69			
7	他人の著作物は勝手に使えない	著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77			
8	勝手に使える場合がある	権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演、演奏・引用転載 教科書P83～P101			
9	著作物を伝達する者を保護する制度	著作隣接権(実演家)(レコード製作者)(放送事業者・有線放送事業者)・隣接権保護期間 教科書P117～P129			
10	勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145			
11	著作権に関する関連制度	知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155			
12	産業財産権とは	特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布			
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは	問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説			
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外	問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説			
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺	問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説			
16	模擬試験(過去問題より重要部分を出題)	答え合わせおよび解説			
17	ビジネス著作権BASIC検定試験	直前に模擬テストおよび解説あり。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。			
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名		実践行動学			
担当教員	朝倉隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	18時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part1～Part3を毎回グループに分かれて実施				
学習目標 (到達目標)	将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Part1 マジックドア1		夢と目標 P1～P7		
2	Part1 マジックドア2		誤った思い込みと言い訳 P8～P13		
3	Part1 マジックドア3		行動のよりどころと心構え P14～P22		
4	Part1 マジックドア4		まず第1歩を P23～P32		
5	Part1 マジックドア5		目標設定しよう P33～P38		
6	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P39～P42		
7	Part2 マジックドア1		プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P1～P4		
8	Part2 マジックドア2		考え方を変えれば行動が変わる P5～P11		
9	Part2 マジックドア3		あなたの問題は、あなたが解決できる P12～P19		
10	Part2 マジックドア4		あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P20～P27		
11	Part2 マジックドア5		目標が才能・可能性を開花させる P28～P32		
12	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P34～P36		
13	Part3 マジックドア1		入学から今日までの成長を実感しよう P1～P4		
14	Part3 マジックドア2		働く自分をイメージしてみよう P5～P10		
15	Part3 マジックドア3		自分が最大限に生きる働き方とは P11～P15		
16	Part3 マジックドア4		将来を描いてみよう P16～P20		
17	Part3 マジックドア5		夢実現への第一歩を踏み出そう P21～P24		
18	Step Up Sheet		夢実現整理・行動計画の振り返り P25～P28		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかありません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、実践行動学ファシリテーター資格有				













②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		映像舞台制作実習			
担当教員	矢頭勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	114時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 19日×6コマ 2. 制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての舞台制作および演技スタッフとして音響・照明などのオペレート				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台プランニング				
2	舞台プランニング				
3	舞台プランニング				
4	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
5	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
6	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
7	制作		CUEシート作成 (音響・照明)		
8	制作		CUEシート作成 (音響・照明)		
9	制作		CUEシート作成 (音響・照明)		
10	制作		美術セット作成		
11	制作		美術セット作成		
12	制作		美術セット作成		
13	仕込み		美術セット・音響・照明仕込み		
14	仕込み		美術セット・音響・照明仕込み		
15	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
16	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
17	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
18	ゲネラルプローブ		音響・照明オペレート 直し		
19	本番		音響・照明オペレート 撤収		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			観客を入れての本番になります。授業の一環というよりプロ意識 を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				



科目名		卒業進級制作実習			
担当教員	矢頭勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	120時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての舞台制作および演技スタッフとして音響・照明などのオペレート				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台プランニング				
2	舞台プランニング				
3	舞台プランニング				
4	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
5	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
6	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
7	制作		CUEシート作成（音響・照明）		
8	制作		CUEシート作成（音響・照明）		
9	制作		CUEシート作成（音響・照明）		
10	制作		美術セット作成		
11	制作		美術セット作成		
12	制作		美術セット作成		
13	仕込み		美術セット・音響・照明仕込み		
14	仕込み		美術セット・音響・照明仕込み		
15	仕込み		美術セット・音響・照明仕込み		
16	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
17	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
18	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
19	ゲネラルプローベ		音響・照明オペレート 直し		
20	本番		音響・照明オペレート 撤収・評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			進級評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名		卒業進級制作実習			
担当教員	矢頭勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	120時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての舞台制作および演技スタッフとして音響・照明などのオペレート				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台プランニング				
2	舞台プランニング				
3	舞台プランニング				
4	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
5	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
6	準備		音源集め、照明プランニング、ほか		
7	制作		CUEシート作成（音響・照明）		
8	制作		CUEシート作成（音響・照明）		
9	制作		CUEシート作成（音響・照明）		
10	制作		美術セット作成		
11	制作		美術セット作成		
12	制作		美術セット作成		
13	仕込み		美術セット・音響・照明仕込み		
14	仕込み		美術セット・音響・照明仕込み		
15	仕込み		美術セット・音響・照明仕込み		
16	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
17	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
18	通しリハーサル		音響・照明オペレート 直し		
19	ゲネラルプローベ		音響・照明オペレート 直し		
20	本番		音響・照明オペレート 撤収・評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			卒業評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				





科目名	異文化研究				
担当教員	安川嘉文		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科舞台スタッフコース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	38時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 19×2コマ 2. 提携大学：台南芸術大学での授業受講 3. (台湾) 海外の文化・流行・生活を体験することで異文化を学ぶ				
学習目標 (到達目標)	海外の映像・アニメなどの知識習得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	資料など配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	異文化研修について		異文化研修についてのイントロダクション		
2	台湾講座 1		台湾基礎知識 (民族・言語・国土面積・通貨・気候等)		
3	台湾講座 2		台湾基礎知識 (芸能・文化・慣習・教育等)		
4	台湾講座 3		現地旅行会社のガイドとスカイプで中国語講座		
5	異文化芸術鑑賞		台湾制作、または台湾を題材、テーマにした映像作品、または舞台作品を鑑賞		
6	海外研修旅行準備		海外渡航における注意点・準備物について		
7	海外研修旅行準備		自由行動計画を立てる		
8	海外研修旅行準備		自由行動計画を立てる提出・現地課題の配布		
9	海外研修旅行準備		海外研修旅行説明会 (持ち物・服装・行程などの最終ガイダンス)		
10	台湾：異文化研修				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴 6 年、海外研修担当4年				